

## 令和4(2022)年度事業報告

令和4(2022)年4月1日から令和5(2023)年3月31日までの事業概要は次のとおりである。

### 1. 法人の基本情報について

#### 〔1〕会 員

令和4(2022)年度末の会員数は次のとおりである。

区 分	会 員 数	備 考
個人正会員	1542名	うち海外在住外国人正会員6名
特別正会員	45名	
団体正会員(公益)	66口	
団体正会員	67口	
学生会員	373名	
名誉会員	16名	
合 計	2109名	

〔2〕運営に関する会議を次のとおり開催した。

#### (1) 第42回通常総会

- 1) 日 時 令和4(2022)年6月1日(水) 13時00分～13時32分
- 2) 場 所 タワーホール船堀(東京都江戸川区)
- 3) 出席者 912名
- 4) 議 題

- ア. 令和3(2021)年度決算(案)について
- イ. 名誉会員の推挙について

報告 令和3(2021)年度事業報告

#### (2) 第132回理事会

- 1) 日 時 令和4(2022)年5月16日(月) 16時00分～18時00分
- 2) 場 所 学会事務局(東京都江東区)
- 3) 出席者 西嶋会長他理事21名、監事2名、運営幹事3名、他に事務局
- 4) 内 容
  - ア. 各種表彰の選考
  - イ. 顧問の任期と名誉会員推挙について
  - ウ. 第42回通常総会の開催、招集、議決権行使および委任の方法の承認
  - エ. 議案および議事資料の確認、令和3(2021)年度決算(案)および事業報告の承認
  - オ. 規程改定の承認
  - カ. 研究委員会の前年度活動報告、今年度継続申請および予算の承認

- キ. 入退会者等の承認
- ク. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
- ケ. その他

(3) 第133回理事会

- 1) 日 時 令和4(2022)年9月5日(月)11時40分～12時30分
- 2) 場 所 一橋講堂会議室(東京都千代田区)
- 3) 出席者 西嶋会長他理事23名、監事3名、他に事務局
- 4) 内 容
  - ア. 入退会者の承認
  - イ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
  - ウ. その他

(4) 第134回理事会

- 1) 日 時 令和5(2023)年3月16日(木)12時20分～13時30分
- 2) 場 所 愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市)
- 3) 出席者 池副会長他理事21名、監事2名、運営幹事9名、他に事務局
- 4) 内 容
  - ア. 各種表彰の選考
  - イ. 令和5(2023)年度事業計画案と予算案の承認
  - ウ. 学会将来ビジョン策定準備について
  - エ. 入退会者および特別正会員への移行の承認
  - オ. 2023-2024 理事・監事被選挙人名簿の承認
  - カ. 代表理事、業務執行理事の職務執行の報告
  - キ. その他

[3] 運営方法および財政改善に関する検討

健全な運営のための業務改革と財政改善を積極的に推進した。

2. 事業活動等について

[1] 公益目的事業

**公1 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための年会・シンポジウム・セミナー等の開催**

**公1-1. 年会**

年会を次のとおり開催した。

(1) 第57回日本水環境学会年会

- 1) 開催日 令和5(2023)年3月15日(水)～17日(金)
- 2) 場 所 愛媛大学城北キャンパス(愛媛県松山市)・ハイブリッド開催
- 3) 参加者 1353名
- 4) 一般発表:発表件数619件(口頭418件+ポスター201件)の他、特別講演会、企業展示、水環境ビジネスガイダンス、会員企業・研究機関等就職説明会、男女共同参画推進セミナー、各賞の発表と表彰が行われた。

## 公1-2. シンポジウム

シンポジウムを次のとおり開催した。

### (1) 第25回日本水環境学会シンポジウム

- 1) 開催日 令和4(2022)年9月6日(火)～7日(水)
- 2) 場所 東京大学本郷キャンパス(東京都文京区)・ハイブリッド開催
- 3) 参加者 514名
- 4) 18の研究委員会によるセッションの他、50周年特別企画パネルディスカッション、各賞の発表と表彰が行われた。

## 公1-3. セミナー

セミナーを学会設立50周年記念事業として次のとおり開催した。

### (1) 第31回市民セミナー

- 1) 開催日 令和4(2022)年8月10日(水)
- 2) 場所 オンライン開催
- 3) 参加者 58名
- 4) テーマ スマホ等身近なツールでできる環境研究と環境学習

### (2) 第68回日本水環境学会セミナー

- 1) 開催日 令和5(2023)年1月24日(火)
- 2) 場所 オンライン開催
- 3) 参加者 262名
- 4) テーマ PFOS, PFOA およびその他のPFASをとりまく国内外の現状と課題

## 公1-4. 産官学協力

第35回見学会を次のとおり実施した。

コロナ情勢に鑑み、産官学協力委員会のみでハイブリッド開催を試行した。

- 1) 開催日 令和4(2022)年12月12日(月)
- 2) 場所 低炭素水素サプライチェーン実証設備(宮城県富谷市)
- 3) 参加者 現地10名、オンライン3名

水環境懇話会を下の通り開催した。

### (1) 第53回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和4(2022)年9月26日(月)
- 2) 場所 オンライン開催
- 3) 参加者 45名
- 4) テーマ 下水再生水による酒造好適米の栽培に関する社会実装型研究

### (2) 第54回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和4(2022)年12月5日(月)
- 2) 場所 オンライン開催
- 3) 参加者 48名
- 4) テーマ 自治体の2050年カーボンニュートラル・気候変動対応推進にむけてー水道施設のエネルギーを活用したマイクロ水力システムの導入、官民連携『場所貸し』スキームについてー

### (3) 第55回水環境懇話会

- 1) 開催日 令和5(2023)年2月21日(火)
- 2) 場所 オンライン開催

- 3) 参加者 76名
- 4) テーマ 水道広域連携の実現に向けたICTの貢献

#### 公1-5. 国際学会

国際会議を次のとおり開催した。

Water and Environment Technology Conference 2022-online (WET2022-online) を開催した。

(一部は、水ing株式会社からの出捐事業として実施した。)

- 1) 開催日 令和4(2022)年7月9日(土)～10日(日)
- 2) 場所 オンライン開催
- 3) 参加者 201名
- 4) 発表数 142件

#### 公1-6. 学会設立50周年記念行事

学会設立50周年記念した特別講演会、式典を次のとおり開催した。

- 1) 開催日 令和4(2022)年9月5日(月)
- 2) 場所 一橋講堂会議室(東京都千代田区)・ハイブリッド開催
- 3) 参加者 168名

#### 公1-7. 支部活動

7支部がそれぞれ総会、講演会、研究発表会、セミナー、表彰等を実施した。

#### 公1-8. その他

- (1) 関連学協会の講演会等を協賛・後援した。
- (2) 環境工学連合講演会を開催する日本学術会議土木工学・建築学委員会企画分科会環境工学連合小委員会に継続して参画した。
- (3) WET2022-onlineなどの機会を捉えて、国際連携会員の拡大に努めた。
- (4) オンライン・対面型融合活動の推進(リモート化促進)について検討し、年会等の行事で実施した。

### 公2 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための機関誌等の発行

#### 公2-1. 機関誌

- (1) 機関誌「水環境学会誌」を毎月発行し、会員に配布した。
- (2) 機関誌「水環境学会誌」原著論文編およびバックナンバーを科学技術振興機構(JST)が運営するJ-STAGE上で公開した。

#### 公2-2. JWET

機関誌“Journal of Water and Environment Technology”を発行し、科学技術振興機構(JST)が運営するJ-STAGE上で公開した。

#### 公2-3. 水生生物資料頒布

水生生物調査法に関する環境省水・大気環境局/国土交通省水管理・国土保全局編「川の生きものを調べよう」冊子および下敷を販売した。

#### 公2-4. 学会設立50周年記念出版

学会設立50周年記念出版である学会誌特集企画の全記事データの公開方法を検討した。

#### 公2-5. その他

- (1) 年会等講演資料集を販売した。
- (2) 「水環境学会誌」およびその前身の「水質汚濁研究」のVol.1～Vol.30のPDF版を収めた

DVD-ROM を販売した。

### 公3 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための助成・表彰等の研究支援

#### 公3-1. 会員助成

水環境国際招聘賞および水環境国際活動賞

水環境国際招聘賞（いであ招聘賞）および水環境国際活動賞（いであ活動賞）を選考し、次の各氏に授賞した。

(1) 水環境国際招聘賞 (JSWE-IDEA Water Environment International Exchange Award)

Norhayati Abdullah (Universiti Teknologi Malaysia, Malaysia)

A. H. M. Faisal Anwar (Curtin University, Australia)

Kai HE (Sun Yat-sen University, China)

Changha Lee (Seoul National University, Korea)

Liwen Xiao (Trinity College Dublin, Ireland)

(いであ株式会社からの出捐顕彰事業として上記の5名の海外在住外国人会員に対し「水環境国際招聘賞」を授与し、第57回年会で研究発表を行う来日費用等を助成し表彰した。)

(2) 水環境国際活動賞 (JSWE-IDEA Water Environment International Activity Award)

やまもと こういち  
山本 浩一 (山口大学)

泥炭性堆積物の水環境中動態に関する国際ワークショップ (ハイブリッド)

すずき ゆうじ  
鈴木 裕識 (岐阜大学)

International Symposium on Microplastics Issues in Water Environment (水環境中のマイクロプラスチック問題に関する国際シンポジウム)

(いであ株式会社からの出捐顕彰事業として上記の2名に対し「水環境国際活動賞」を授与し、各国際会議開催の費用の一部を助成することを決定した。)

#### 公3-2. 一般表彰

水環境の保全・創造に関する社会・文化活動が顕著である者、及び地域の水環境保全・創出に貢献した小・中・高校生のグループなどを年会において表彰した。

(1) 水環境文化賞

1) 水環境文化賞

受賞者 特定非営利活動法人 海の再生ネットワークよろん (鹿児島県大島郡与論町)

対象活動 サンゴ礁保全を通じた与論島周辺海域の再生活動

受賞者 ぼてじゃこトラスト (滋賀県大津市)

対象活動 滋賀の魚つかみ文化を次世代につなぐ水環境保全活動

2) 水環境文化賞「児童・生徒の部」(みじん子賞)

受賞者 愛媛県立今治西高等学校 生物部 (愛媛県今治市)

対象活動 蒼社川を中心とした水質調査や生物の生息環境・生態特性の解明による水環境保全活動

受賞者 島根県立浜田高等学校 自然科学部 (島根県浜田市)

対象活動 植生・水質等の生育環境の解明と地域連携によるハッチョウトンボの保全活動

(2) 7支部がそれぞれ表彰を実施した。

### 公3-3. 会員表彰

学会の発展に貢献あるいは、水環境に係る分野において特に優れた功績を認められる個人、あるいは優秀な研究論文を発表した個人等、内規で定められた表彰内容にふさわしい会員を、総会、年会及びシンポジウムの開催時に表彰した。(敬称略・50音順)

(1) 学会賞

該当者なし

(2) 学術賞

受賞者 おかべ さとし  
岡部 聡 (北海道大学大学院工学研究院環境創生工学部門・教授)  
対象研究 窒素除去にかかわる複合微生物生態系の構造と機能の解析

(3) 論文賞

受賞者 てらだ あきひこ  
寺田 昭彦 (東京農工大学工学部化学物理工学科・教授)  
主要対象論文 Organic carbon determines nitrous oxide consumption activity of clade I and II *nosZ* bacteria: Genomic and biokinetic insights  
掲載誌 *Water Research*, Vol.209, 117910 (2022)

(4) 論文奨励賞 (廣瀬賞)

受賞者 くらだ きょうへい  
黒田 恭平 (産業技術総合研究所・研究員)  
対象論文 High-rate cotreatment of purified terephthalate and dimethyl terephthalate manufacturing wastewater by a mesophilic upflow anaerobic sludge blanket reactor and the microbial ecology relevant to aromatic compound degradation  
掲載誌 *Water Research*, Vol.219, 118581 (2022)

受賞者 まつき まさや  
松木 昌也 (福岡県保健環境研究所・主任技師)  
対象論文 An analytical method for simultaneous measurement of various cyanotoxins using stable isotope-labeled surrogates and a microbial flora analysis to assign each cyanotoxin to its source  
掲載誌 *Journal of Water and Environment Technology*, Vol.20, No.6, pp.261-272 (2022)

受賞者 みうら たかゆき  
三浦 尚之 (国立保健医療科学院・主任研究官)  
対象論文 遺伝子・化学物質マーカーの測定に基づく琵琶湖・淀川水系のふん便汚染評価  
掲載誌 水環境学会誌, Vol.45, No.5, 193-205 (2022)

(5) 技術賞

受賞者 ほりい ゆういち  
堀井 勇一 (埼玉県環境科学国際センター)  
対象技術 揮発性メチルシロキサンの水分析法開発、国際標準化、及び環境調査への適用

(6) 技術奨励賞

受賞者 ほんだ ひろし  
本田 大士 (花王株式会社)  
みやた かえで  
宮田 楓 (花王株式会社)  
いのうえ やすあき  
井上 泰彰 (花王株式会社)  
やまね まさゆき  
山根 雅之 (花王株式会社)  
あまの ゆうと  
天野 雄斗 (花王株式会社)  
にしおか とおる  
西岡 亨 (花王株式会社)

もりた おさむ  
森田 修 (花王株式会社)

対象技術 環境 RNA を用いた生態調査技術

(7) 博士研究奨励賞 (オルガノ賞) (◎: 最優秀賞)

ツァオ ユアンジュン  
◎趙 垣鈞 (北海道大学)  
かんばら ひろみ  
蒲原 宏実 (広島大学大学院)  
すがわら こうたろう  
菅原 巧太朗 (秋田県立大学)

(オルガノ株式会社からの出捐顕彰事業として、第 25 回シンポジウムで発表した上記の 3 名に「博士研究奨励賞」を授与し、うち 1 名に最優秀賞を授与した。)

(8) 年会優秀発表賞 (クリタ賞) および年会優秀発表賞 (クリタ賞) 受賞者国際会議発表助成

1) 年会優秀発表賞 (クリタ賞)

あおい ひろあき  
青井 裕亮 (京都大学大学院)  
あくと たいよう  
阿久戸 太陽 (北海道大学大学院)  
いけお たくま  
池尾 拓馬 (京都大学大学院)  
いしかわ ちはる  
石川 千遥 (岡山大学大学院)  
いとiri ゆうや  
糸入 祐也 (北海道大学大学院)  
おがわ ゆうき  
尾川 裕紀 (岐阜大学大学院)  
おきた じゅんべい  
沖田 純平 (熊本大学大学院)  
きたじま ゆい  
北島 唯衣 (中央大学大学院)  
ささき しゅうと  
佐々木 柊人 (群馬大学大学院)  
そめや かほ  
染谷 果穂 (東洋大学大学院)  
とみやま けいすけ  
富山 恵介 (京都大学大学院)  
ふじい なおき  
藤井 直樹 (広島大学大学院)  
ほりぐち てつぺい  
堀口 哲平 (京都大学大学院)  
もとかわ だいすけ  
元川 大輔 (広島大学大学院)  
もりやま ももこ  
森山 桃子 (東北大学大学院)  
わせ なおき  
和世 直輝 (京都大学大学院)

(公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団からの出捐顕彰事業として、上記の 16 名に「年会優秀発表賞」を授与した。)

2) 年会優秀発表賞 (クリタ賞) 受賞者国際会議発表助成

こいけ かずよし  
小池 主祥 (金沢大学大学院)  
なかざわ よしふみ  
中沢 禎文 (国立保健医療科学院)  
やすい みどり  
安井 碧 (東京大学大学院)

(公益財団法人クリタ水・環境科学振興財団からの出捐顕彰事業として、上記の 3 名に国際会議発表の旅費等を助成した。)

(9) 年会学生ポスター発表賞 (ライオン賞) (◎: 最優秀賞)

あさかわ たかし  
浅川 高志 (北海道大学)

いしざき	しょうた	
石崎	翔大	(北海道大学)
えびすや	さえ	
惠美須屋	彩瑛	(東洋大学)
おおつか	はな	
大塚	花	(大阪大学)
おはら	きこ	
小原	紀子	(北海道大学)
きたむら	こうたろう	
北村	幸太郎	(東京農工大学)
くにみつ	はるか	
國光	春花	(秋田県大学)
こじま	ひろもと	
小島	弘幹	(京都大学)
すずき	ゆうすけ	
鈴木	雄介	(岐阜大学)
すずき	れん	
鈴木	蓮	(東北大学)
たかい	まほ	
高井	麻帆	(北海道大学)
ながつま	しもん	
永妻	志間	(松江工業高等専門学校)
はぎわら	だいすけ	
萩原	大祐	(東洋大学)
ふくい	けんき	
◎福井	健暉	(北海道大学)
やまもと	ともや	
山本	智也	(北里大学)
よしだ	ななほ	
吉田	菜々穂	(秋田県立大学)
よねざわ	あきほ	
米澤	璃穂	(京都大学)

(ライオン株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の17名に「年会学生ポスター発表賞」を授与し、うち1名に最優秀賞を授与した。)

(10) 年間優秀論文賞 (メタウォーター賞)

対象論文 クロロエチレン類の脱塩素化に用いる水素供与体としてのグルコン酸の汎用性

受賞者 藤井 雄太<sup>1,2</sup>、三塚 和弘<sup>1</sup>、緒方 浩基<sup>1</sup>、井上 大介<sup>2</sup>、池 道彦<sup>2</sup>

(1 株式会社大林組技術研究所、2 大阪大学大学院工学研究科)

掲載誌 水環境学会誌, Vol.44, No.4, 69-77 (2021)

(メタウォーター株式会社からの出捐顕彰事業として、上記の論文の著者に2021年「年間優秀論文賞」を授与し、第25回シンポジウムでの受賞者講演会の発表者に参加費等を助成した。)

(11) WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞) および WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞)

1) WET Excellent Paper Award (WET 優秀論文賞 (水 ing 論文賞))

対象論文 Availability of Seawater as a Chloride Source for UV/electro-chlorine Advanced Oxidation Process

受賞者 Naoyuki KISHIMOTO, Koki HARA (Ryukoku University)

2) WET Excellent Presentation Award (WET 優秀発表賞 (水 ing 発表賞))

Steven BATINOVIC (Yokohama National University/La Trobe University)

Luhur Akbar DEVIANTO (Tohoku University)

Yalan GAN (The University of Tokyo)

Kyoshiro HIKI (National Institute for Environmental Studies)

Klon D. C. HINNEH (Kyoto university)

Hidehiro ISHIZAWA (University of Hyogo)

Lan LIN (Tohoku University)

Yoshifumi NAKAZAWA (National Institute of Public Health)



Chinh Thi Kieu PHAM	(Ritsumeikan University)
Chomphunut POOPIPATTANA	(Northern Farm (1996) Co., Ltd)
Aulia Fajar RAHMANI	(University of Yamanashi)
Yuta SHINFUKU	(The University of Tokyo)
Ashok Kumar SHRESTHA	(Saitama University)
Niva STHAPIT	(University of Yamanashi)
Soichiro TAMAI	(University of Miyazaki)
Fumichika TANAKA	(Nagoya Institute of Technology)
Ryuya TOMITA	(Nagoya Institute of Technology)
Li XIE	(Nagoya Institute of Technology)

(水 ing 株式会社からの出捐顕彰事業として、WET2022-online の参加者のうち、上記 18 名の発表者に WET Excellent Presentation Award を授与した。WET2022-online での発表に対する WET Excellent Paper Award は WET2023-online で授与される。)

(12) 7 支部がそれぞれ表彰を実施した。

#### 公 3 - 4. IWA 支援・協力

国際活動への助成、IWA 活動への協力などを行った。

- (1) 京都会議記念基金を基にした国際会議参加援助は、該当者がなかった。
- (2) IWA およびその日本国内委員会の活動に参加し、IWA 活動を支援・推進した。
- (3) IWA 団体会員の 2023 年度会員継続連絡と会費請求書の発行依頼を代行した。

### 公 4 水環境分野における学術文化の発展及び水環境の保全を図るための研究調査

#### 公 4 - 1. 受託研究調査の実施

公益財団法人日本下水道新技術機構からの受託研究調査を次のとおり実施した。

令和 4 年度 下水中の新型コロナウイルス検出方法研究委託

#### 公 4 - 2. 研究委員会活動

20 研究委員会（嫌気性微生物処理、MS 技術、生物膜法、身近な生活環境、微生物生態と水環境工学、バイオアッセイによる安全性評価、土壌地下水汚染、水中の健康関連微生物、湿地・沿岸域、流域物質動態とノンポイントソース、膜を利用した水処理技術、紫外線を利用した水処理技術、産業排水の処理・回収技術、電気化学的技術、熱帯・亜熱帯地域水環境、農産業に関わる水・バイオマス循環技術、将来の水環境変化に対応した水供給システム、汽水域、地域水環境行政課題、マイクロプラスチック）が、シンポジウムでセッションを企画するなどそれぞれ活動を行った。

#### 公 4 - 3. 災害調査

日本学術会議と連携して活動する防災減災・災害復興に関する学会ネットワーク「防災学術連携体」に継続して参画した。

### [2] 収益事業

#### 収 1. 事務室賃貸

対象収益なし。